



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業 推進校実施報告書

- 1 学校名 : 広島県立湯来南高等学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 1 月 12 日 (木)
- 3 対象 : 全校生徒 (88 名)
- 4 派遣オリンピックアン : 岩崎 恭子さん (競泳 : 200m 平泳ぎ バルセロナオリンピック 金メダル)
- 5 授業内容 : 講演

2017 (平成 29) 年 1 月 12 日 (木) に広島県立湯来南高等学校にて、バルセロナオリンピック (1992 年) の競泳 200m 平泳ぎ金メダリストであり、競泳史上最年少金メダリスト (当時 14 歳) でもある岩崎恭子さんが全校生徒 88 名を対象に、「幸せはいつも自分でつかむ」というテーマでご講演されました。

岩崎さんは、はじめは水泳をする気はなかったものの、お姉さんに憧れて 5 歳でスイミングスクールに入ったことや、全国大会に出場する姉の姿を見て、「自分にもできるのではないか」と思うようになり、オリンピック出場を目標に掲げて次第に競技力を伸ばしていったことなど、ご自身と水泳との関わりにおいては、姉の存在は欠かすことはできないとお話しをされました。

また、競泳史上最年少の 14 歳での金メダル獲得を果たしたバルセロナオリンピックでは、必ず強くなれると信じて代表合宿での厳しい練習に必死についていったことが自信につながり、当時の世界記録保持者とのレースでも緊張せずに自分らしい泳ぎができたと言います。その後、周囲から注目を浴びて生活も大きく変わる中で、一度は目標を見失い、練習にも身が入らない日々が続いたそうですが、1994 年のアジア大会の出場を逃したことが契機となり、もう一度自分を見つめ直して練習に励んだことで、アトランタオリンピック出場を果たすことができた、ご自身の経験を振り返りました。

こうした経験を踏まえ、講演を聞く高校生には、自分で限界を決めず目標を持って努力を続けることの重要さや、自分から行動を起こすことの大切さについて伝えられました。また、岩崎さんご自身も今後は、“する” 側ではなく “伝える” 側として、1 人でも多くの人にオリンピック・パラリンピックやスポーツに興味を持ってもらうための活動をしていきたいと、2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた目標を語ってくださいました。

事後のアンケートでは、生徒から「目標を持つ事の大切さに気付いた」、「自分も目標を立てて頑張ろうと思った」などの感想が挙げられたほか、「自分が将来目標にしている職業でパラリンピアンをサポートをしたい」といったコメントも見られました。また、輝かしい経験だけでなく苦しい経験もされ、それらを乗り越えてきた岩崎さんのお話から、「勇気が出た」、「自分に自信が持てるようになった」といった感想も見られるなど、生徒には岩崎さんの前向きなメッセージが深く伝わったようでした。

6 授業の様子



「幸せはいつも自分でつかむ」をテーマにご講演された岩崎恭子さん。
講演には、バルセロナオリンピックの金メダルもお持ち下さり、生徒は本物の金メダルを手にしながら
岩崎さんのお話しに聞き入りました。



また、生徒からの多くの質問にも熱心に回答される中で、ご自身の今後の目標も語っていただきました。



講演後には全校生徒との記念撮影や、学校のマスコットキャラクターの「ユキナンチョウ助」との
記念撮影を行いました。